

※開催概要について

この資料は、勉強会の議論の状況を迅速に伝えるために、ファシリテーターがグループ討議の概要を発表した内容等をファシリテーター及び事務局がまとめて整理したものです。個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。

沼津高架 PI プロジェクト

勉強会＜合同＞第 1 回 開催概要

5月25日（土）、勉強会＜合同＞第1回が開催され、沼津駅周辺地区及び原地区から34名のメンバー（うち、代理人10名）が参加しました。冒頭、事務局から改めてPIプロジェクトの趣旨について説明があり、PIプロジェクトでは高架事業等について予断ない検討を行い互恵的解決を目指すこと、意思決定の場ではなく意思決定のための判断材料を提供するための場であることを再確認しました。あわせて、勉強会発足時に確認した話し合いのルールについても再確認しました。続いて、PI委員会石田委員長より「PIにおける話し合い」と題する話題提供がありました。民俗学者・宮本常一が体験した村人とのエピソードを挙げながら「話し合い」のスタイルとして情報提供と共有の場が大切であり、勉強会における「話し合い」は立場を越えて議論が進められている貴重な事例であると評価した上で、さらに議論の輪を広げる努力が必要とのアドバイスがありました。その後、評価項目（案）と戦略案（代替素案）の検討状況について詳しい説明があり、引き続き各グループにて、両地区の検討が始まりました。

沼津駅周辺地区については、総合整備型の案（A案）として、街中に緑や宅地・施設を増やし人が集まる街にするために、まとまった公共投資を行い新たな土地を生み、ソフト策・民間活力を活用する案と、個別対応型の案（B案）として、公共投資を出来る限り抑えて、ソフト策・民間活力を用いて活性化する案の大きく二つの案について議論が進められました。B案では駅前に広い土地を確保するために鉄道敷に人工地盤を設ける案が改めて示された他、「より早く安く」進めることに重点を置いた案としてさらに整備内容を絞り込んだ案も提案されました。

原地区の戦略案（代替素案）・A活性化案については、「夢のあるプラン」としての共通認識が概ね形成されました。加えて、観光振興の視点から、沼津が自転車愛好家にとって人気エリアであることを活かすことも提案されています。A-1案については、貨物駅を誘致して広域的な物流や観光の拠点形成に積極的に活かすという考え方も提案されています。A-2案については、貨物駅がなくても活性化できるという意見がある一方で、貨物駅移転用地が細長く使いづらい土地であることや津波の不安から企業立地しにくいのではという懸念が示されました。また、原地区のこれまでの検討では、貨物駅の有無を分けたような細かな検討はなされていないとの指摘もありました。

広域的な代替素案についても意見があり、貨物駅を近傍駅に移転する案（C案）の実現性への疑問や、今後の貨物駅のニーズについての疑問が出されました。

評価項目については、沼津駅周辺地区に関して「将来に渡ってのランニングコスト」「道路工事中の通行止め等の期間・回数（商業への影響）」等が新たに提案され、「早く効果が上がるか」「魅力ある土地活用ができるか」「広域からの集客性」などの視点が必要だということが改めて強調されました。

また、合同勉強会においても、互いにぶつかり合うのではなく建設的に話し合おうとの呼びかけが参加者からありました。

最後に、PI委員会石田委員長から、数々の制約のある難しい議題であるが熱気のある話し合いが行われていることの評価、今後の効率的な話し合いのために資料の簡素化や事前配布、また、市との連携など、運営に関する助言がありました。寺部委員からは、代替素案と評価項目の議論が混乱している点や、グループ検討での発言者・発言時間に偏りがある点などが指摘されました。

次回6月22日（土）は、引き続き合同にて勉強会を開催する予定です。